

enocoのそうだん [eno so done!]

## 相談シート18 市民協働のポイントは「後出しジャンケン」

[トップ](#) >> [enocoのそうだん \[eno so done!\]](#) >> 相談シート18

### アドバイザー

忽那裕樹 (enocoプラットフォーム部門チーフディレクター/E-DESIGN代表)

1966年大阪府生まれ。庭園をはじめ公園や広場、大学キャンパス、商業・集合住宅・病院などのランドスケープのデザインとプログラムを国内外で展開。また、パークマネジメント、タウンマネジメントを通して、地域の改善や魅力向上に様々な立場で関わっている。enocoのプラットフォーム形成支援事業を手掛けるとともに、民主導の水と光のまちづくり推進組織「水都大阪パートナーズ」のプロデューサーとして数々の事業の企画・運営を推進中。



### 相談者

泉大津市教育委員会事務局教育部生涯学習課

### 相談分野 (キーワード)

地域活性

市民協働

観光

まちづくり

文化

広報・PR

その他

## 主な相談内容

### これまで長年に渡って開催されてきた、市民主体の文化祭と市展について

#### Q 1

この催しが本当に必要か、泉大津市独自の魅力をつくるにはどうすれば良いか、改めて考え直してみたい。

#### A 1

今年度は時間がないので、いつもどおり実施してもらいましょう。しかし来年から変わっていくことも議題に上げて、しっかり意識してもらおう。現状のスキームを維持しつつ、若手参入 (例えば学生部門、アドバイザーかオブザーバーに学生) をさせていく。

外部からコーディネーターに入ってもらい、各参加団体にヒアリングを行って、困っていることや今後やりたいことを聞き、他の団体と活動を連動させるコーディネートをしてもらうと良いと思います。

ポイントは後出しジャンケンです。「彼らが発言した後に、行動を起こす」こと。参加者でアイデアを出し合って、それを実現していく、という姿勢が重要。こうしたい!と言ってきた人、頑張りたいと思っている人をサポートしていく。やりたくない人はひとまず放っておきましょう。全体が動き始めたら、自然と行動していくこともありますので。参加者自身の意見が反映されたイベントは、参加者の発信意欲が強いので、自然と広報までつながります。

## 相談者の声

異動が多く専門性に乏しい行政職員にとって、専門家に話を聞くことができるこのような機会はとても自信につながりました。また実際の事例を交えて様々なエッセンスをいただけたので、これをもとに膨らませていきたいと思っています。

## その後の動き

相談を通じてご紹介いただいたカンヴァス事業にお手伝いいただき、文化祭を担う組織づくりや新規イベントを実施できました。それらの経験を受け、市民との協力関係が築けたおかげで、文化祭をさらに盛り上げるため、継続的に話し合いを重ねています。

サイトポリシー・ プライバシーポリシー	> enocolについて	> お知らせ・プレスリリース	いいね! 0	^
指定管理者	> 事業紹介	> メルマガ登録	ツイート	
バナー広告募集	> フロアガイド	> ニュースレター		
	> レンタルスペース	> お問い合わせ		
		> アクセス		